

政策強化・融合等推進会議の進め方

(概要)

- ・ S D G s 及びレジリエンスのための政策融合の推進を図る「プラットホーム」の機能を持たせる。
- ・ 全局・区の庶務担当部長、その他関係職員等により構成。「京都創生総合戦略・レジリエンス・S D G s」推進本部会議の下部組織に位置付ける。
- ・ レジリエンス戦略の新たな取組（戦略 P51～61 更なる取組の検討案など）を具体化するため、関係する部署等の参画により、複数の局区等の視点から融合に必要な課題解決のヒントや具体化の方策等についてアイデアを出し合う。（ワークショップ形式による議論）
- ・ また、政策融合を進めたい事業のほか、政策融合によって効率化（廃止）したい事業などを掘り起こし（全庁から募集等）、融合できそうな施策・事業や、連携相手等について、同様に意見を出し合う。（政策融合のための施策・事業のマッチング）
- ・ 上記により出た意見は、事務局で取りまとめ、関係各局区等にフィードバックし、融合の促進を図る。
- ・ 推進会議の議論については、具体化に向けて進んだもの、進んでいないものを含めて、今年度末にとりまとめを行い、「京都創生総合戦略・レジリエンス・S D G s」推進本部会議において報告（成果発表）を行う。

(その他)

- ・ 5つの視点（レジリエンスの視点）に基づく施策・事業の見直しを実施する。
- (1) **チェックシート**
「S D G s・レジリエンスの視点に基づく既存の取組等の点検・見直しチェックシート」を活用し、各所属において施策・事業のセルフチェックを行う。
各局区等において、事務事業の見直し、組織・人員計画の在り方、予算要求等における配分の視点などに活用する。
- (2) **職員提案**
職員提案制度を活用し、各所属において「レジリエンスの視点」の職員への普及を図るとともに、レジリエンスの視点による業務改善を推進する。
- ・ 各局区等の取組情報を収集し、集約して会議にて共有する。